

特集 ①日本香港観光交流年②曾蔭權行政長官来日

危機克服へ連携、ワーキング・ホリデー制度もスタート



麻生太郎首相と会談する 曾蔭權行政長官 香港経済貿易代表部提供



中曽根外相とワーキング・ホリデー制度の導入で合意した曾蔭權行政長官 (香港経済貿易代表部提供)

グローバルな経済危機が深刻さを増す2月半ば、香港特別行政区政府の曾蔭權(ドナルド・ツァン)行政長官が4日間にわたって日本を公式訪問した。曾長官は麻生太郎首相はじめ政、財、官界のトップと精力的に会談したが、これを踏まえ日本と香港の間では経済危機克服へ向けての連携と併せて、2つの大きなプロジェクトが動き出すことになった。

一つは曾長官と中曽根外相が合意したワーキング・ホリデー制度だ。香港政府はすでに海外からの留学生に授業料の一部助成などの措置を実施しているが、ワーキング・ホリデーは日本の若者が香港で、また、香港の若者が日本で働きながら学べる仕組みを作ろうというもの。曾長官は制度の背景について「日本の働く若者に社会に出る前に香港に来て、中国・香港の近代、現代の姿、また香港の文化を学んでもらいたい。香港の若者には日本の文化、伝統を学び、香港に持ち帰ってもらう」と解説、日本と香港の若い世代は「末長い友好増進に貢献し、世界の平和のためにも尽くしてもらいたい」と期待を込めた。

もう一つは「2009日本香港観光交流年」の推進だ。昨年、日本には観光立国を願う関係者の長年の夢だった観光庁が発足したが、その観光庁が百数十カ国・地域の中から最初の観光交流のパートナーに選んだのが香港だ。昨年、日本から香

港を訪問した人の数は132万人余り、一方、人口700万人の香港からは約55万人が日本を訪れている。

曾長官は「日本の観光庁は最初の観光公式パートナーに香港を選ぶという」正しい選択をした」と称え「香港への観光客は昨年の金融危機の後も増え、合計2900万人に達した。香港は世界のトップレベルのホテル、料理、多様な観光資源があり、日本からの訪問客を待っている。今年は東アジア競技大会も香港で開かれる。日本の全家族が香港へ来て欲しいと思っている」と呼びかけた。

現下の経済危機に対しても曾長官は「12年前に通貨・金融危機を克服し、危機管理のノウハウを積んでいるアジア諸国にとって、今の経済危機はチャンスになる」と語り、珠江デルタ地域の大規模開発へ向けての香港と日本の協力など、先行投資の具体的な青写真を示した。そして「香港は日本などのパートナーと協力して境界を越えて投資と貿易を進めていきたい」と力強く語った。



飛龍61号は、2009日本香港観光交流年の関連記事を2-4面で、また、曾蔭權行政長官の訪日及び日本記者クラブにおける講演と会見を5-6面で特集しました。

理事・広報副委員長 麻生 雍一郎

2009年4月 発行

目次

危機克服へ連携、ワーキング・ホリデー制度もスタート	1
笑顔で迎える日本	2
トラム無料乗車券など特典がいっぱい	
-日本人観光客を迎える香港の新企画	3
新しいお薦め観光スポット！馬灣公園&NOAH S ARK、	
世界初、ノア方舟も登場	4
経済危機はチャンス、国際協調で対応を	
-曾蔭權行政長官、自信の記者会見	5
香港特別行政区 曾蔭權(ドナルド・ツァン)行政長官来日	6
全国連合会 各地協会便り	
連合会 日本香港協会全国連合会活動報告	7

東 京 新たな挑戦に向けて	8
関 西 2009年度総会、チャイニーズ・ニュー イヤー パーティ	9
中 京 平成21年度 総会及び懇親パーティについて	10
福 岡 福岡日本香港協会役員との 春節の集い	11
山 形 山形県輸出先の3位は香港 ビジネスセミナーと 春節パーティ	12
北海道「香港のつどい2009」を開催	13
宮 城「春節セミナー&パーティ 2009—香港食品輸出促進セミナー &香港観光のタベ—」を開催	14
沖 縄 日本香港協会新春講演会 ～食品から見た香港～	15
横浜ドラゴンボートレース参加者募集	16

笑顔で迎える日本

広報委員 小柳 淳

「入国手続き変更の予定はありません。ただ、日本のイミグレーションにはもっと笑顔が必要ですね」

香港記者からの「日本入国手続きに改善策はありますか」との質問に対する、日本政府観光庁本保長官の答えは、会場を埋め尽した香港記者たちの温かな笑いを誘った。1月23日に香港で開催された、日本香港観光交流年オープニングセレモニー・記者会見でのひとこまである。

同日、日港両政府は観光・協力に関する覚書を取り交わした。日本の観光庁は昨年10月に新設され、観光庁長官の初海外出張先が香港となったのは日本観光振興面での香港の重要性を示している。2008年に香港からの旅行者は対前年27.3%増の55万人で、初の50万人突破。835万人の訪日客全体では第5位である。人口700万の香港としては驚異的な数値である。昨年来の世界不況は観光需要にもマイナスに作用しているが、日本を訪れる国・地域の中で香港は比較的堅調であり、経済環境が厳しいときこそ、官民挙げて観光交流を促進する活動に意義がある。



日港関係者が香港で鏡開き

双方に重要なインバウンド旅行

静岡県の獅子舞で開幕したセレモニーには、日本香港双方の政府観光関係者やJNTO日本政府観光局、HKTB香港政府観光局ほか、民間の交通、宿泊、旅行など各企業、そして報道関係者が出席した。俳優のイーキン・チェンさんも加わって、日本式の鏡開きと乾杯で明るくスタート。会場で振る舞われる日本各地の清酒や焼酎に列ができ、香港の人達にも日本の酒が浸透してきていることを窺わせた。

続いて2月18日には東京でも交流年セレモニーが開催された。こちらのオープニングは香港式の獅子舞で、曾蔭權香港行政長官臨席のもと、香港観光大使ジャッキー・チェンさん、日本国観光広報大使木村佳乃さんも参加。そして2009日本香港観光交流年親善大使に俳優の成宮寛貴さんが任命された。香港でのセレモニーが日本側、東京では香港側が主体として運営したが、それは自地域への旅行（インバウンド）誘致に力点を置いたことの表れであろう。

日本香港間の旅行者増は双方にとっての経済波及効果、そ



観光交流年ポスターのお披露目

して文化交流促進をもたらす。香港から日本への旅行は、香港旅行会社や航空会社のビジネスにとってプラスであるに止まらず、訪問先である日本にも宿泊、交通に加えてショッピングや飲食、ショービジネスなどに幅広い経済効果をもたらす。近年、日本でも国を挙げてインバウンド振興に力を入れている所以である。逆方向の日本発観光旅行者を誘致するため、香港はじめ近隣アジア諸国・地域が先行してインバウンド需要開発を推進してきた訳だが、日本もインバウンド戦線に加わったことで、双方向の観光振興策がより重要で効果的になってきた。

人も情報も交流促進

交流年の今年は日港それぞれで、相手方のトレンドや観光魅力を紹介するイベントが開催される。共同の観光交流年Webサイト (<http://www.s-smiles.net/>) も開設されて、日港間の観光情報へのアクセスもさらに便利になった。3月末にはNHKとRTHK(香港電台)共同製作のドラマ「幸福のスープはいかがが」が放映され、7月からは昭和女子大学オープンカレッジにて「香港まるごと講座」が開講される。文化・情報面の活動も厚みを増している。

2月の香港行政長官来日時には、日港間でワーキングホリデー(工作假期)を早期に実施すると合意した。観光旅行とは少し異なるが、双方の若者が短期の就労を伴う留学を行えることで、交流の幅が広がってゆくことだろう。この合意の直後から、ネット上で朗報に喜ぶ若者の書き込みが見られたのが印象的だった。

日本は2004年に香港パスポート保持者に対して、90日以内の観光旅行についてビザを免除した。その後、訪日香港人が急増することとなったのは言うまでもない。これで日本と香港で短期旅行者に対するビザ条件が同一になった。数日間の日本旅行にもビザ取得が必要だった10年ほど前に、私は訪日旅行促進のため名古屋で開催された旅行展・商談会に参加したことがある。そのとき、若い香港人記者とたまたま昼食を共にしたのだが、ビザ条件について彼女から「unfairだと思いませんか」と問われて答えに窮した。冒頭の本保長官のユーモアも、日本の訪日観光振興策の蓄積と実績があつての余裕と日港間の成熟しつつある関係の表れとも思えるのだ。

トラム無料乗車券など特典がいっぱい —日本人観光客を迎える香港の新企画



日本香港観光交流年特典クーポンブック



親善大使 - 左から香港観光大使ジャッキー・チェンさん、日本国観光広報大使木村佳乃さん、2009 日本香港観光交流年親善大使成宮寛貴さん

香港政府観光局日本・韓国地区局長 加納 國雄

香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部、香港政府観光局、国土交通省観光庁、日本政府観光局は、2009年1月1日より12月31日までを「2009日本香港観光交流年」とすることといたしました。

2009年は、日本が海外旅行の自由化を施行してから45周年であるとともに、香港特別行政区のパスポート所持者に対し、90日以内の観光等を目的とした短期滞在の訪日査証が免除されてから5周年にあたる年です。近年、日本および香港の双方向での渡航者数は増加をつづけており、「2009日本香港観光交流年」は、これらを背景として両地域のますますの観光促進を目的に両政府間で取り決められました。また、2008年に観光庁が発足し、初の観光交流年の地域として香港が選ばれました。

2008年の日本人の香港への総渡航者数は、1,324,797人と前年から微増する結果となりました。景気の悪化や、原油価格の高騰などによる渡航費用の上昇の影響により、日本人出国者数が前年比約7.6%減少するなか、少しでも渡航者数を伸ばせたことは、香港が以前と変わらず日本人観光客にとって魅力あるデスティネーションであるとともに、旅行業界の皆様の日ごろの努力があったからだと思います。今年は「2009日本香港観光交流年」を迎え、我々香港政府観光局としても更なる飛躍の年にしたいと考えプロモーションしていく予定です。

日本から香港へいらっしゃるすべての日本人のお客様のみを対象に、本当にお得な特典を集めた「2009日本香港観光交流年特典クーポンブック」を発行いたしました。香港名物の路面電車「トラム」の無料乗車券や、45のホテルでのウェル

カムドリンクサービス、レストランやショッピングモールでの割引サービスなど、今年だけの特別特典が満載のクーポンブックです。是非クーポンブックを入手してより一層香港観光をお楽しみください。

また、夏には香港のライフスタイルやカルチャーなどを紹介するイベント「香港ウィーク」を東京の六本木で開催する予定です。いわゆる観光名所の紹介だけではなく、カルチャー面を紹介していくことで香港への興味を喚起しようと考えています。その他にも、B級グルメガイドブックやトラムガイドの発行など、旅行を盛り上げる情報提供を企画しています。

さる2月18日には、中華人民共和国 香港特別行政区 ドナルド・ツァン(曾蔭權)行政長官が来日し、キックオフイベントとなる「2009日本香港観光交流年 夕食会」を開催いたしました。政府関係者、旅行業界関係者が約200人集まり、この大イベントの幕開けを祝いました。夕食会では、これまで香港旅行に貢献してきた企業や個人を表彰する「2009日本香港観光交流年ツーリズムアワード」を開催。ドナルド・ツァン行政長官より受賞者へトロフィーが贈られました。

そして、今年特別に設置した「2009日本香港観光交流年親善大使」に就任した俳優の成宮寛貴さんへの任命式をおこないました。香港観光大使のジャッキー・チェンさん、日本国観光広報大使の木村佳乃さんも駆けつけ、新たに交流年の親善大使となった成宮さんにエールを贈るとともに、各大使が「2009日本香港観光交流年」での双方向での交流を呼びかけました。

「2009日本香港観光交流年」での交流が観光のみならず文化、産業の面でも今後の両地域のさらなる発展の大きな礎を築くものとなっていくよう期待したいと思います。

新しいお薦め観光スポット！馬湾公園&NOAH'S ARK、世界初、ノアの方舟も登場


香港日本人学校 森山 正明(写真・文)

今回紹介する馬湾は、空港や香港ディズニーランドがあるランタオ島と青衣(チンイー)という島に挟まれた小島である。主に漁業に従事する人たちが住んでいたのだが、新空港建設に伴い、開発がはじまった。市内と空港を結ぶための交通網が整備されるにあたり、この島の上に青馬大橋^(注1)の建設が決定。それに付随する形で新興住宅地の建設も進められた。現在、漁業関係者はわずかとなり、ベットタウンとしての役割を果たす街へと変貌を遂げている。

そんな馬湾に、新しい観光スポットがオープンした。それが、馬湾公園(MA WAN PARK)だ。大自然(エコ)をテーマにした公園である。香港最大手のデベロッパー新鴻基地産(Sun Hung Kai Properties)が、香港政府の補助も受けながら建設した。公園内は、テーマごとに分かれている。以下に主なテーマごとの説明を簡単に紹介する。

【鳥望台(HILLTOP LOOKOUT)】

公園の中央部は、小高い山となっていて、鳥をモチーフにしたモニュメントがたくさん飾られている。さらにここからは、青馬大橋をはじめとして、馬湾やランタオ島の自然を眺望することができるのがとても気持ちいい場所だ。

【再生エネルギー基地(WINDMILL STATION)】

環境問題について考えることができるエリア。太陽光発電パネルや風力発電、水力発電、地熱発電などのクリーンエネルギーのモデル実験場となっている。この公園内で使われる電気のほとんどは、以上紹介した発電方法によってまかなわれている。クリーンエネルギーに関する展示室もあり、詳しく理解することができる。

【歴奇園地(ADVENTURE JOURNEY)】

自然を体感することができるアスレチックジムエリア。つ

り橋やトンネル、ロープ登りなどができる。個人でも楽しめるが、友達と協力しあいながら難しいアスレチックをクリアしていく楽しみ方もできる。

その他にも、歴史を学ぶことができる芳園書室・古蹟館(HERITAGE CENTRE)、恋人や伴侶がここを歩くとより親密になることができるといわれる意中園(SWEET GARDEN)、屋外アートギャラリーの彩虹牆(RAINBOW WALL)、太陽館(SOLAR TOWER)など、数多くのテーマがあり子どもから大人まで楽しめるところだ。(一部、工事中の施設あり)さらに一番の目玉のスポットが以下に紹介する場所となる。

【挪亞方舟(NOAH'S ARK)】

旧約聖書の『創世記』(6章-9章)に登場する、大洪水にまつわる、ノアの方舟をテーマにした世界で初めての公園。『創世記』の記述による方舟の大きさを現在の大きさに直しほぼ原寸大の大きさの舟が造られている。この方舟は、5階建てでさまざまな施設がある。マルチメディア館においては、旧約聖書にまつわる物語や大洪水伝説についての紹介。さらに、科学教育センターや上映室、宿泊施設、レストランなども併設している。そして屋外には、伝説に基づき、動物のつがいの彫像を展示。

この挪亞方舟は、香港で今年一番話題になるテーマパークとなるだろう。ただ、この現在挪亞方舟は、関係団体者の見学しか受け付けていない。詳細は、ホームページを見ていただくか、政府観光局にお問い合わせしてほしい。(2009年3月16日現在)

以上が、香港の新しいスポット情報となる。香港には数少ない学習体験型のアミューズメント。ぜひ、足を運んでいただき、香港の新しい魅力を知ってほしいものだ。

開園時間

月曜日・金曜日・土曜日 午前9時～午後6時(入場は、午後5時まで)
 火曜日～木曜日・日曜日・祝祭日 午前8時～午後6時(入場は、午後5時まで)
 休園日 旧正月初日～三日

馬湾公園ホームページ(英語・中国語) <http://www.mawanpark.com/eng/home.php>

挪亞方舟(Noah's Ark)ホームページ <http://www.noahsark.com.hk/eng/index.php> (最新情報は、HPをご覧ください)

または、政府観光局にお問い合わせください。(852)2508-1234 日本語案内3番

(注1) 青馬大橋(Tsing Ma Bridge)橋の長さ1377m。つり橋状の長さでは世界で6番目の規模。道路と鉄道が併用される橋としては世界一の長さを誇る。橋の名前は、橋の両端の島である青衣島と馬湾島から名付けられた。

経済危機はチャンス、国際協調で対応を — 曾蔭權行政長官、自信の記者会見

理事・広報副委員長 麻生 雍一郎

2月半ば、2人のVIPが日本を訪れた。ヒラリー・クリントン米務長官と曾蔭權香港行政長官である。曾蔭權長官は麻生首相や中曽根外相と会談、多くの重要な案件について合意しただけでなく、日本のトップ財界人やメディアと会見し、現在の経済危機の克服策について、日本にとっても示唆に富む、非常に有益な提言を行った。

しかし、クリントン米務長官の発言や行動を大扱いした日本の新聞、テレビは曾蔭權長官について殆ど紙面や放映の時間を割かなかつた。残念としかいいようがない。そこで、曾長官が2月18日、日本記者クラブで行った講演と会見の様を飛龍誌上で取り上げてみたい。

香港の行政長官が日本記者クラブで会見したのは、1997年の董建華氏以来。曾蔭權長官は講演の冒頭で英国から中国に主権が返還されてからの香港の12年間をかつて説明した。1995年に「香港の死」という特集を組み、その将来を悲観的に報じたフォーチュン誌が2年前に「香港は死んでも消え去ってもいない」と予測が間違ったことを認め、返還10年の姿をきちんと伝えたことを紹介した。そして日本と香港が往復540億ドルの貿易額を持つ、重要なパートナーであり、とくに農林・水産品では香港が日本の輸出総額の2割を占める最大の輸出市場になっている現状を強調した。

曾長官は麻生首相とのトップ会談で両政府間の協力と連携の取れたアプローチで危機克服に当たることで合意した。香港の経済指標も日本と同様、悪化の速度を速めており、香港大学アジア太平洋経済協力研究センターでは、今年第1四半期のGDP伸び率をマイナス2.6%、通年ではマイナス3%と予測している。失業率は08年12-09年1月期で5.0%と前期比で0.4ポイント上昇したが、これも年央には6%に達する、と予測している。

曾長官は、1997年のアジア通貨危機と比べても「現状はより深刻で、根深い。状態はさらに悪化し、最悪の事態は（いまではなく）この先にある」と厳しい見通しを示した。さらに「トンネルは長くなる。数年間の対応が必要だ」と長期的な危機を覚悟していることを明かした。しかし、同時に香港の銀行、証券で破綻したり、政府の資本注入を求めている例は現状ではなく、アジア各国を見ても欧米のような大型の銀行破たんが出ていないことを挙げ、「香港は今回の危機を逆にチャンスだと考えている。また、この危機は日本を含むアジア各国にとってもチャンスになり得る」と強気の展望を語った。

曾長官は香港がアジア通貨危機、さらに2003年のSARS（重症急性呼吸器症候群）を乗り切った経験から危機対応ノウハウが蓄積されているとし、「香港には5000億ドルの外貨準備がある。必要なら2年分の支出をまかなえる額だ。GDP比で3.5%の景気刺激策を発動でき、十分に準備が整っている」と自信を見せた。危機克服とその後の長期的な発展のけん引役に香港政府が策定した10大インフラ、とくに珠江デルタ地域を2020年に最も競争力の高い地域にするプロジェクトをあげ、



内外の記者団の質問に答える曾蔭權行政長官（日本記者クラブ提供）

これにより鉄道、港湾、橋梁、道路網の整備が進み、25万人の雇用創出などGDPを7%引き上げる効果が見込めると語った。

現下の経済危機に対しては米国が約8000億ドル、中国が4兆元、日本が事業規模で計75兆円の景気刺激策を打ち出しているが、曾長官は「どんな国も、米国ですらも1国単位では現下の危機には対処できない。G7やG20で協力して適切な対応をしなければならぬ」と国際的な協調のワク組みの大切さを指摘した。

グローバル市場でアジアの競争力強化

「珠江デルタの開発プロジェクトも広東、香港、マカウだけではできない。日本の企業は700社以上が香港に地域本部を置いている。珠江開発プロジェクトに香港を介し、香港を活用して参加してほしい」と呼びかけた。さらに「危機が終わった後のグローバル市場でアジアの競争力が強くなっているようにしなければならない」とアジア諸国が連携して先行投資し、将来、世界経済に占める力を高める必要がある、と力説した。

香港の金融機関が誇る人民元建てビジネスも珠江デルタ開発と外国資本の参入に大きな役割を果たす、と強調。また、香港の完備した通信・情報ネットワーク、簡素で低率な税制、コモンローに裏打ちされた法制度などが日本など海外からの投資を呼び寄せる基盤になる、として世界金融センターとしての香港の将来の地位にも自信を見せた。

財政長官として立ち向かった1997年の通貨危機、政務長官として対処した2003年のSARSの危機と、行政長官として遭遇した現在の経済危機の対比を聞かれ、曾蔭權長官は「過去の経験から危機の本質が見抜けるようになり、何をしたら良く、何をしてはいけないかが分かるようになった」と率直に述べた。さらに「今の危機はチャンスであり、私の気持ちはエキサイティングだ。日本をはじめパートナーの国々と協力して境界を越えて投資と貿易を進めていく」と語った。

一貫して香港とともに歩き、英国から中国への主権の返還をめぐる交渉で鍛えられ、様々な政治、経済的混乱を乗り越えてきた曾蔭權長官の表情には秘められた闘志に余裕すら垣間見え、強い印象を残す記者会見となった。

香港特別行政区 曾蔭權(ドナルド・ツァン)行政長官来日

香港貿易発展局 次長 伊東 正裕



2月17日 昼食講演会で乾杯する曾長官と高村正彦氏、羽田孜氏ら

香港が中国に返還されて以降、2代目の特別行政区行政長官(Chief Executive)を務める曾蔭權(ドナルド・ツァン)氏が、本年2月現職としては初めて日本を公式訪問しました。曾長官は1995年に財政長官に就任、抜本的な施策の実施によりアジア金融危機を乗り切った実績で知られ、2001年5月に政府ナンバー2の地位である政務長官に就任、2005年より現職に就き、2007年の選挙で再選されておりますので、行政長官としての任期は2012年6月末までです。

香港特別行政区政府駐東京香港経済貿易代表部は、曾長官の来日に際し、香港貿易発展局、日本経済団体連合会、経済同友会、日本商工会議所の後援のもと、2月17日に帝国ホテル「富士の間」にて昼食講演会を開催致しました。講演会には、日本全国の政界・財界のトップから約250名が参加、日本香港協会関係では東京の財前理事長、中京の高橋会長、沖縄の國場会長が出席しました。参加者一同、激しく変動する国際経済情勢において、どのように香港が舵取りをして行くのかに加え、香港経済の見通しや国際都市としての香港の将来のビジョンについての曾長官の基調講演に熱心に耳を傾けました。

講演では、香港の将来について四つの重点項目別にプレゼンテーションが行われました。第一は中国本土中央政府との連携による香港=珠江デルタ地域一体化の推進 本土と香港を結ぶ高速鉄道=2009年着工、香港 マカオ 珠海を結ぶ大橋=2010年着工 により珠江デルタ西部へのアクセスを飛躍的に改善)、第二はCEPA(経済・貿易緊密化協定)を通じた香港企業

(外国企業の香港法人を含む)の本土における事業機会の拡大、第三は香港 華南地域における環境改善 大気汚染対策 都市の緑化・CO₂の削減)、最後に国際金融センターとしての地位向上 香港は①世界100大銀行の70%が拠点を設置、②世界第7位・アジア第3位の株式市場、③中国外で唯一の人民元建て債券を発行)に触れ、これらの目標に向けて既にアクションを取り始めていることを紹介しました。

翌日に当たる2月18日には、ペニンシュラ東京「グランドボールルーム」にて、香港政府観光局主催の「MEHK Meeting & Exhibition Hong Kong」設立イベント」が開催され、曾長官が冒頭でスピーチを行いました。国際会議と展示会の誘致は今後香港が力を入れて行く分野ですが、2009日本・香港交流年のテーマの一つとして、香港経済貿易代表部と香港政府観光局、香港貿易発展局が連携しながら、日本の旅行界・ビジネス界に対して新たな取り組みを開始することが発表されました。



2月18日 MEHK設立イベント 開幕式の曾長官と香港政府観光局田会長

香港は日本にとって世界第5番目の輸出先であり、日本食品の輸出先としては2年連続で世界第1位です。日本政府による2004年のビザ解禁措置以降、訪日外国人旅行者数でも香港は第5位を占めており、2,100社に上る日本企業が金融や貿易の分野において香港に進出するなど、日港間には長年に亘る密接な経済関係が育まれて来ました。曾長官は日本滞在中に各省大臣を始め政財界幹部との個別面談を精力的にこなしました。今回の来日を契機に、香港と日本間の経済・貿易パートナーシップが更に深まることが期待されます。

2009日本香港観光交流年「香港の自然」の再発見を!

「日本香港観光交流年」の2009年は、日本と香港で様々な行事が計画されていますが「飛龍」ではこれまでも、一般的な観光では見過ごされがちな香港の海や山や野の自然の素晴らしさを紹介した記事をも掲載してきました。

最近号で主なものを紹介すると

1. 41号 表紙 “香港の山海徑が誘う” 写真は“プレーバーコープ周遊の山旅”(2002.6)
2. 52号 表紙 “香港の自然は魅惑する”写真は“山男たちの熱い想いをそそるシャープピーク”(2006.4)
P-6 “香港を歩く”
3. 53号 P-7 “香港島を歩いて一周する”(2006.8)
4. 56号 P-6 “香港新時代”(2007.8) などなど、香港の自然も貴重な観光資源だと紹介してきました。

日本香港協会 全国連合会 活動報告

日本香港協会全国連合会は、
日本と香港の友好親善を深めるとともに
ビジネス関係強化を担う各地の
日本香港協会をコーディネートする組織です。



事務局

昨年10月に発足した日本香港協会全国連合会では、全国各地協会の活動を様々な形で支援しています。2009年3月までの半年間に亘る主な事業について、以下ご紹介します。

1. ホームページの立ち上げ

NPO法人日本香港協会（東京）のURLを一新して全国版ホームページとし、各地協会のページにアクセスできるようになりました。各地協会の活動に関する報告や告知がリアルタイムで見られるよう、最新情報を定期的に連合会事務局宛にお知らせいただけますよう、お願い申し上げます。

<http://www.jhks.gr.jp/>

2. セミナー／ワークショップ

各地協会における経済・貿易関連イベント開催に際し、連合会がスポンサーシップを提供致しました。

- ① 東京 08/09/22): 香港ビジネス懇話会 参加者56名
- ② 沖縄 08/09/25): 特別講演会 参加者82名
- ③ 宮城 08/11/05): 食品販路拡大セミナー 参加者58名
- ④ 関西 09/01/29): 経済セミナー 参加者30名
- ⑤ 北海道 09/02/05): 香港セミナー 参加者80名
- ⑥ 宮城 09/02/20): 香港食品輸出促進セミナー 参加者41名

3. 春節の集い／パーティ

連合会幹部 関係者が北から南まで1ヶ月に亘って開催された各地協会の春節イベントに参加致しました。

- ① 北海道 2/5) 賤前会長・古田名誉事務局長・ジェニー・チョック名誉顧問・加納名誉顧問出席、参加者141名
- ② 宮城 2/20) 古田名誉事務局長・T B 小金氏・加納名誉顧問(代理)出席、参加者48名
- ③ 福岡 2/25) 古田名誉事務局長出席、参加者15名
- ④ 関西 2/26) 古田名誉事務局長・ジェニー・チョック名誉顧問・T B 伊藤氏・加納名誉顧問(代理)出席、参加者95名
- ⑤ 中京 2/27) 賤前会長・E T O アルバート・タン氏・ジェニー・チョック名誉顧問(代理)・T B 齊藤氏・加納名誉顧問(代理)出席、参加者95名
- ⑥ 沖縄 3/2) 古田名誉事務局長出席、参加者23名
- ⑦ 山形 3/3) 古田名誉事務局長・加納名誉顧問出席、参加者42名
- ⑧ 東京 3/4) 賤前会長・古田名誉事務局長・加納名誉顧問出席、参加者97名

連合会事務局では、今後も引き続き経済・貿易関係イベントを中心に各地協会活動の支援をして参ります。来る12月の「香港フォーラム」に向け、昨年に引き続き日本から「Outstanding Initiative Awards」の表彰対象となるような意義ある企画提案を皆様からお待ち申し上げます。

「香港と聞いて、観光であれ業務であれ滞在期間数日に過ぎない一見の旅行者にとっては、おそらく十中八九思い浮かべるのが、ビクトリア湾をはさんでひしめき林立する近代的超高層ビル群や、さしずめ香港島側ならワンチャイ、コーズウェイベイ、九龍側ならチムシャツツイ、またはモンコックなど、いささか猥雑で喧噪の極みと言うべき下町ショッピングの風情であろう。」然り「それも確かに香港を描写するに欠かせない一視点に違いない。しかしそれに加えて全く別の角度から、香港の知られざる実態を紹介... (省略) 香港は大自然を懐に取り込んだ近代的な大都市です... (省略)」

で始まるのが、約2年間の香港中文大学での留学を終えて日本に帰国するに当たり協会会員塚本勝弘氏執筆の「香港の山野行札賛」の書き出しの一部です。この文章は5年以上も前に書かれたものですが、今でも全く新鮮であり、観光年の今年、読者の皆さんに是非香港の素晴らしい自然を紹介致したく、次号でその全文を紹介する予定です。ご期待下さい！

新たな挑戦に向けて

事務局



総会風景

暦の上では、執筆中の現在すでに2か月余り経過していますが、本格的な活動はさる3月4日に開かれた第8回年次総会と引き続く春節パーティを皮切りに始まりました。

(1) 年次総会

- 第1号議案 平成20年度事業報告」
- 第2号議案 平成20年度決算報告」
- 第3号議案「平成21年度事業計画」
- 第4号議案 平成21年度予算計画」
- 第5号議案 役員人事」

の順で肅々と報告と審議が進められ、いずれも満場一致で可決承認されました。なかんずく、第1号議案については主要事業ごとに映像をパワーポイントに取り込み、参会者の視覚に訴える画期的な手法が高く評価されました。第2号議案では、前年度までの一般事業会計と収益事業会計の二本立てから、もはやその必要性なしとの判断に基づき、前年総会での承認と所轄庁である東京都の認証を経て、一本化された初年度での決算であることが強調されました。その結果、協会収支状況と財政状態の全貌が一目瞭然、容易に把握できるようになったことを多とすべきでしょう。第3号議案では、過去において固定化している日港市民交流を見直し、七夕パーティに代えて、香港市民がより重視する仲秋節の開催が新機軸と言えます。それらを受けて、第4号議案は表面上収支均衡予算となっていますが、昨今の経済情勢から、収入面での確実な達成には一抹の不安は免れず、支出面での極力節減に努めることで、究極的均衡を目指す決意が表明されました。第5号議案はさして注目を浴びる内容には乏しく、旧理事3名の任期中辞任と新理事2名の補充選任が承認されました。続く臨時理事会では、若林 五味両副理事長の退任を受けて、新たに徳久・原田両理事の昇格とこれに関連しての職掌分担についても

徳久副理事長>ビジネス交流委員長

原田副理事長>総務担当

の推挙が財前理事長よりあり、全員一致で了承されました。以上で、新年度の執行部体制が確定しましたことをお知らせします。



春節パーティ 開会を待つ会場

(2) 講演会

今回は、当協会のこの時期においては異例である、現役のビジネスマンを講師としてお迎えすることになりました。日本貿易振興機構（ジェトロ）、日中経済協会に長く在籍し、香港も含む中国各地の勤務を経験された中国通で、現在東京中小企業投資育成株式会社 国際ビジネスセンター所長である藤原弘氏がその人です。話題はかなり多岐にわたりましたが、その中心は最近の現地勤務を踏まえて、「北東アジアの香港」とも称される「大連」をその中核とする中国の東北三省への各国・地域の投資状況・狙い・問題点の啓蒙にありました。比較的耳新しい情報としては

1) 改革開放の先陣を切った沿海地区が、労働力・インフラなどの限界から、次の生産拠点を求める場合の視点の違いです。日本は専ら「チャイナプラスワン」の目を南方、とりわけ「ベトナム」に向ける傾向が大了。一方、欧米企業は内陸部の二線級更には三線級都市への進出も狙っている点です。

2) この地区への投資元として意外なのは香港・台湾・韓国勢の突出振ります。どうやらその狙いは「拡大する中口国境貿易」にあります。そうした動きを背景に「大連」には「ロシアを含む極東アジアのビジネスセンター」になることが期待されていると言えます。

詳細は、近著「中国で生き残るために」のご購読をお勧め致します。

(3) 賀詞交換会

冒頭、香港貿易発展局 日本首席代表の古田茂美氏から、これが訪問行脚の最後となる全国各協会の活動振りの概況報告に加えて、東京和僑会と広東同郷会幹部の紹介がありました。いずれも、今後の協会組織の拡大強化に当たって有力なパートナーになり得るものと期待されます。続いて、香港政府観光局 日本韓国地区局長の加納国雄氏が今年「2009日本香港観光交流年」として両地政府間の公式行事化された画期的な情報の説明がありました。両地間の人的交流は近年ますます活発になり、昨2008年度には、日本からの海外渡航者総数が減少の中、香港への渡航者は微増した事実は大きな意味があること強調されました。最後は、表紙に木村佳乃さん（日本国観光広報大使）とジャッキー・チェンさん（香港観光大使）のツーショットをあしらい年間を通じて有効な、世界中で日本からの旅行者だけに与えられる「特典クーポンブック」が参会者全員に贈与のおまけ付きで終わりました。

2009年度総会, チャイニーズ・ニュー イヤー パーティ



開会挨拶をする木全千裕新会長

理事・事務局長 戒田 真幸

関西日本香港協会では2月26日帝国ホテル大阪で2009年度の総会と恒例のチャイニーズ・ニュー イヤー パーティを開催しました。総会では、副会長の木全千裕氏（元住友電工常務取締役、現株式会社テクノアソシエ特別顧問）の会長就任、田中義次理事（元全日空香港支店長、現株式会社ソーケン顧問）の副会長就任が承認され、7名の新任理事を加えた17名の役員体制で本年度の協会運営を行うことになりました。又、昨年10月に設立された日本香港協会の会員として、本年度から法人会員を大巾に増強して関西と日本の経済交流の促進を図る意欲的な事業計画が発表され、香港ビジネス協会世界連盟の一員として香港貿易発展局と連携して香港に関心を持つ企業との交流に注力する方針が発表されました。今年は香港と中国関連の経済セミナーの回数を増やし、法人会員同士の香港ビジネス交流会などを企画します。又、12月初めに香港で開催される香港フォーラムは、香港貿易発展局本部の人達や国内と海外の会員と交流できる一大イベントであり、香港や中国の最新動向とビジネスの実態を学ぶ絶好の機会ですので、関西からできるだけ多くの企業に参加して欲しいと希望しています。

チャイニーズ・ニュー イヤー パーティは、昨年並みの95名が参加し、旧正月特別料理とアトラクション、会員企業から提供された沢山の景品と特別賞としてキャセイパシフィック航空提供の大阪—香港ペア航空券が当たるラッキードロー等で楽しいひと時を過ごしました。

パーティでは、木全新会長が開会の挨拶で総会で選任された田中副会長と新任理事を一人ずつ紹介され、激変する世界情勢や日本と香港、中国との友好的な交流の重要性について話をされ、日本香港協会の新しい組織である全国連合会の会員として意欲的な協会の発展に努力したいとの抱負を述べ

られました。今年は、ご来賓として香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部首席代表のジェニー・チョック氏が歓迎の挨拶を述べられ、中華人民共和国駐大阪総領事館の鄭祥林総領事が流暢な日本語で挨拶されて乾杯の音頭をとっていただき、香港貿易発展局の日本首席代表古田茂美氏からも挨拶をいただきました。又、関西経済連合会や大阪商工会議所などの財界や各種経済団体の代表者にも多数参加していただきましたが、今年は兵庫県広東同郷会から会長の鮑悦初氏他4名の華僑の方達が初めて参加されました。今後在関西華僑の方達との交流が出来ればと期待しています。食事の間中来賓の方達やテーブル間で大変友好的な交流が活発に行われました。

また、香港貿易発展局大阪事務所と香港政府観光局からのお知らせがあり、関西日本協会からは日本香港協会全国連合会への加盟、昨年の香港フォーラムで当協会が主催した香港返還10周年記念特別講演会が東京と一緒にアワード受賞したことの報告、2009年度香港フォーラム、第6期C MMSの活動報告を行いました。皆が大好きな香港を大いにPRできました。

今年のアトラクションは当協会文化部幹事の方の紹介で昨年11月にMaxi Single「この雪がとけるまで」でメジャーデビューしラジオやTVにも出演して関西で大ブレイク中の音楽グループapri cotに格安のギャラで出演してもらいました。ボーカルのMakiさんの素晴らしい歌唱力とリズムカルな演奏の音楽を楽しく聞くことができました。

今年のプログラム最後のラッキードローでは、特別賞の大阪—香港往復ペア航空券で会場内が緊張と興奮で最高に盛り上がり、C MMSの卒業生である株式会社モリアの代表取締役守屋亨氏に特別賞が当たり大喜びでした。最後に田中義次副会長の閉会の挨拶で楽しかったパーティを終了しました。



アトラクションで熱唱するapri cot(アプリコット)

平成21年度「総会及び懇親パーティについて」

副会長 事務局長 佐藤 亮一



開会挨拶をする高橋会長

平成21年度初頭を迎え、中京日本香港協会が、19年目の齢を数える事は、特別に背伸びをした訳ではなく当初と変わらぬ香港に所縁のある者達の懇親会という基本姿勢が激しい運営上の問題あるものの継続されて来た事の大きな要因と思われる。

今後は、この姿勢に加え、本部の日本香港協会全国連合会の体制において、全国9支部の一員として、昨10月29日(水)香港六国ホテルにて、発会式を終え、ビジネス、観光面等総合的に香港との連携に協力し合うという体制にどのように対処して中京地区が対応できるか期待される所であるが当協会としては気負うでもなく肅々として齢を重ねてゆくことが日本香港協会連合会の微々たる役目に沿えれば成果ありと思う。

さて、その背景あるも本年も新年を迎え、総会を平成21年2月27日(金)名古屋商工会議所3階会議室、2階パーティ会場にて20年度事業報告21年度事業計画を理事31名にて、高橋治朗会長のもと、議事を無事終了した。

その後パーティ会場に移動し、95名の参加者と共に、名刺



盛りあがるパーティの様子



毎年恒例のライオンダンス

交換会、各々挨拶等開催された。経過としては、ライオンダンスに始まり、余興は「香港の舞姫」として会員協力により華やかにダンスという「花」を添えられた事は、主催者側として大変効果的であった。

それと並行して進めたラッキードローは恒例により香港旅行(キャセイパシフィック協賛)の特賞ありで最後まで盛り上った。

ゲストには、東京から香港貿易発展局より来名戴き、特に今回、香港経済貿易代表部の代表アルバート・タン氏、日本香港協会全国連合会会長財前 宏氏、大阪より香港貿易発展局大阪事務所長ベンジャミン・ヤウ氏他ゲストも多彩ご参加願ひ感謝申し上げる次第です。又、本年より、愛知県国際交流協会の賛助を得て、香港 中国よりの大学、留学生も招待し中京地区の文化、情報も伝達されるよう、継続して交流化の促進を進めてゆくテーマを設けた。

最後に会員、豊島徳三副会長の音頭にて「今年も頑張ろう！！」で終幕とした。

飛龍 No. 61 2009年4月発行

(禁無断転載)

日本香港協会 全国連合会

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-4 トラスティ 麹町ビル6階
香港貿易発展局 東京事務所内
電話 03)5210-5901 FAX 03)5210-5860

NPO 法人日本香港協会 (東京)

〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラスティ 麹町ビル6階
香港貿易発展局内 電話 03)5210-5870

関西日本香港協会

〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内 電話 06)4705-7030

中京日本香港協会

〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内 電話 06)4705-7030

福岡日本香港協会

〒810-0013 福岡市中央区大宮2-3-7
協同組合福岡情報ビジネス内 電話 092)534-6331

山形日本香港協会

〒990-2432 山形市荒瀬町1-14-21
(株)日本不動産コンサルティング内 電話 023)633-2110

北海道日本香港協会

〒060-8661 札幌市中央区大通西3-11
北洋銀行国際部内 電話 011)261-4288

宮城日本香港協会

〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-7-23 明治安田生命仙台一番町ビル3階
(株)JTB東北 交流文化事業部内 電話 022)212-5552

沖縄日本香港協会

〒900-0033 那覇市久米2-2-10
那覇商工会議所内 電話 098)868-3758

URL <http://www.jhks.gr.jp>

事務局

福岡日本香港協会役員との「春節の集い」



挨拶をされる並田会長

去る、2月25日(水)ホテル日航福岡にあります中華料理「鴻臚」に福岡日本香港協会役員、香港貿易発展局による「春節の集い」が開催されました。会には福岡日本香港協会の役員をはじめ、香港貿易発展局より古田茂美日本首席代表、ベンジャミン・ヤウ大阪事務所長、田中洋三大阪事務所次長にご出席いただきました。またこの日はゲストとして北九州市立大学大学院マネジメント研究科教授 王効平経済学博士、コンダクト株式会社代表取締役 和田克之様にもご参加いただき、大変和やかな昼食会となりました。会に先立ちまして古田代表より全国の支部で開催されている春節の集いのご報告があり、並田会長からのお言葉を頂戴し乾杯となりました。

美味しい料理に舌鼓しながら、佐々木副会長から先日、福岡経済同友会で訪問された香港や深圳などの視察報告があり、久しぶりに訪問された感想や、企業視察など大変興味深いお話をいただきました。またそれぞれの会社のお話や香港の経済の動きについて多くのディスカッションが交わされ大変有意義な時間を過ごす事ができました。さらにはこの日、王教授から九州にも華人ネットワーク「和僑会」の創設素案が発表され、5月の発起に向けて準備を進められているとのお話がありました。香港で日本人による個人設立企業は約1,500社とも言われており、九州地区産業界とのビジネス交流ネットワークの構築・維持・拡大を目的とした会で、発起メンバーも錚々たる顔ぶれとなっているそうです。この「和僑会」は現在全国にも発足されていますが、意外にも九州ははじめてであり、活動範囲も香港・中国にとどまらず東アジア地域産業界の華人系ビジネス団体や日本人商工会などとも組織連携を計画しているとの事ですので今後の活動に注目していきたいところです。

最後は福生副会長より「福岡日本香港協会として香港貿易発展局や全国の支部の方々と相互協力、連携をとり今後もお互いに発展していけるよう努力してまいります」とのお言葉をいただき会はお開きとなりました。今後も皆様のご協力をいただきながら福岡も活動の幅を広げていきたいと思っております。



春節の集い参加者メンバーとの記念写真

経済危機に対応する香港

米国発の金融危機による実態経済への影響が及ぶにつれて香港でも企業の倒産や失業者が増えていると言われております。こうした状況を打破するためにも、中国中央政府は、雇用の機会創出や中小企業に対する支援などの対策を進めるため中央政府や広東省政府に香港系企業を支援する対策を打ち出し始めました。

中国中央政府による香港支援策は14項目あり、その1つとして、香港での人民元建てによる貿易決済の解禁がこのほど決定しました。本土の外銀は預金基盤が乏しい上、金融危機によって市場での資金調達が難しくなっており、それにより信用を悪化させ特に珠江デルタや長江デルタ地区に多い外資系中小企業がその影響を受けています。このため、これらの外銀が香港で人民元建てによる債権を発行できれば企業への融資が促され、さらに貿易会社にとっては金融危機で高まる為替リスクを低減することもでき、香港の債券市場の発展、貿易推進にも繋がると大いに期待されています。

また、今年の4月からは、深圳戸籍者に対して香港マルチビザの発給が開始されると発表され、香港への旅行規制が緩和されることになりました。約220万人の深圳戸籍者が1年間に何度でも香港を自由に往復することができるようになり、また広東・香港・マカオの3地は、広東省居民に対しても回数制限なく香港・マカオの個人自由旅行を認める方針で合意され、深圳はその先行ケースとなっています。これにより香港の大きな財源でもある観光業界・小売業界などでは歓迎の声が上がり、何十億HKドルの消費に繋がると期待されています。

昨年発生した金融危機は、まだまだ世界中で大きな悪影響を及ぼしてはいますが、中国中央政府による支援対策に対する対応は非常に早く、次々と新しい手を打ち出してきています。これは、返還直後に襲った鳥インフルエンザの発生、アジア全域にまたがる金融危機、2003年世界中に蔓延した新型肺炎SARSなど、多くの困難に見舞われながらも常に前向きでしっかりと現実を見つめ、良いものをどんどん取り入れ吸収する力を持っているからではないでしょうか。

理事 元会長) 佐藤 元彦

山形県輸出先の3位は香港



山形市内に羽ばたく税関旗

山形というとサクランボや蔵王等々思い出されようが、国際経済人といわれる人にも意外と知られてない事がある。山形市には国際空港も国際港もないが山形市内で立派に通関できることだ。東北唯一のインランドデポ、即ち内陸保税上屋の制度によるものである。東北では本県のみが東京税関の管轄であり、平成2年より東京税関酒田支署山形出張所が創設された。当時、大蔵省関税局、東京税関より格段のご配慮で実現したものであり、小生も山形県庁担当課長として末席を汚した。山形との貿易相手国は、平成19年の山形県貿易統計によると、香港がアメリカを上回り第3位にある。輸出品目は、コンピューターエレクトロニクス部品などで本県の輸出シェアの約10パーセントを占めており、県内陸部に広がるエレクトロニクス産業は、進展する国際分業の中でインランドデポの設置によって通関手続き、クレーム処理のクイックレスポンス化などのメリットにより大きく発展した。香港は中国華南地区とのゲートウエーとしても関係が深く、このように山形県と香港は以前より経済面で深い関係にある。このたびの世界経済危機でエレクトロニクス産業の大きな落ち込みが懸念されるが香港の活力と連携し、早期の回復を期待したい。今後は、果実、食肉などの農産物の輸出や観光客の交流拡大などに一層の連携強化に期待が寄せられている。香港は優れた政策立案と即実行タイミングのよさ、不況から脱出する不死鳥のようなバイタリティは何処からくるか、またそのメカニズムはどうなっているのか、本県では是非その活力の極意を学びたい。毎年、ホンコンフォーラムでは、その疑問を解く鍵になるレクチャーを聴くのが楽しみだ。

ビジネスセミナーと春節パーティ

本年3月3日、桃の節句、午後3時から香港の元気をもらえるような春から縁起の良いセミナー、春節パーティが山形市のテルサホールにて開催された。セミナーには講師として、超多忙中のところ香港貿易発展局日本首席代表 古田茂美氏、香港政府観光局日本・韓国地区局長 加納國雄氏、また、香港貿易発展局東京事務所の進藤晶泰氏の各氏が遠路ご来形していただいた。参加者50名の熱気あふれる会場で古田首席代表の「香港と山形の今後のビジネス」と題してご講演を頂き、香港の現状や将来展望について述べられた。世界は大きく歴史的に変動し、パックスアメリカナの次の世界はパックスチャイナの時代になる。それには香港経済システムのエンジンが大きな推進力を果たすということになるという話に一同納得。加納局長からは「香港と山形の観光・交流について」のご講演があり今年には日本香港交流年2009で、この一年間、香港日本の観光客交流促進の年でいろんな催事が計画されており、香港では日本人の旅行客は大歓迎で特典クーポンブックを準備して待っている。また、香港から日本への観光客もビザなし入国5周年を迎え、この東北地方に数多い優れた温泉、おいしい食材など香港の観光客の誘致を進めてもらいたい。これからの狙い目は個人旅行だ。また、進藤氏からは、貿易発展局のいたれりつくせりの支援事業の説明があった。

セミナー終了後会場を移し、春節パーティがご来賓の古田日本首席代表ご挨拶で開会、盛大に行われた。紹興酒の甕酒も振舞われ香港の話題で大いに盛りあがった。後半、ラッキードローのお楽しみ、景品には香港招待旅行券こそなかったが参加者一同どきどき。時間を忘れパーティが続き、香港がすぐ隣に感ずる一日であった。



古田首席代表セミナー講演

「香港のつどい2009」を開催

事務局

今回で4回目となる「香港のつどい2009」は、2月5日(木)に、北海道日本香港協会および香港貿易発展局主催、香港政府観光局、北海道、札幌市、北洋銀行にご後援頂き、札幌グランドホテルにて開催致しました。

冒頭に主催者を代表して当協会の吉野会長が挨拶。その後、香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部ジェニー・チョック首席代表、中華人民共和国駐札幌総領事館胡勝才総領事に挨拶を頂き、香港貿易発展局の古田日本首席代表の乾杯により会が始まりました。



北海道日本香港協会吉野会長挨拶

当日の会場内では、香港政府観光局様、キャセイパシフィック航空会社様によるディスプレイが行われ、香港気分を盛り上げていました。特に今年「2009日本香港観光交流年」に関連したディスプレイも多数行われました。

また、昨年に続き(株)ホリ様から「夕張メロンピュアゼリー」、(株)とうきびチョコを、石屋製菓(株)様から「白い恋人」「美冬」を参加頂いた皆様にご提供いただきました。北海道で大人気の両社のお菓子はたいへん好評でした。

さらに今年は、日本清酒(株)様から「大吟醸 吉翔 きっしょう」(吟風純米 しぼりたて生 うすにごり)「蔵囲い五年



華麗なライオンダンスの舞い

秘蔵酒 千歳鶴 秘囲い」の日本酒3銘柄を、北海道ワイン(株)様より「北海道ケルナー」「おたるナイヤガラ」「北海道セイベル」のワイン3銘柄をご提供いただき、参加された皆さんは心も体も香港気分には酔っていました。

後半には、ミス香港スカイ・チャンさんが会場を巡り一層華やいだ雰囲気となる中、ジョイ・コーマーケティング・マネージャーからの香港貿易発展局のご紹介に続いて、ドラゴンドانسの華麗な舞い、男性ボーカルカルテット「ダンディーフォー」による素敵なハーモニーが披露され、豪華なステージになりました。



ダンディーフォーの素敵なハーモニー

最後に行われた、皆さん期待のラッキードロー大抽選会では、特賞の「札幌-香港往復ペアチケットとノボテルセンチュリーホテル香港ペア宿泊券のセット」を、航空券はキャセイパシフィック航空会社様、宿泊券は香港政府観光局様にご提供頂きました。さらに、日本航空(株)様、全日本空輸(株)様、(株)ホリ様、石屋製菓(株)様、日本清酒(株)様、北海道ワイン(株)様、香港貿易発展局様、北洋銀行様から、多数の賞品をご提供いただきました。特賞は、羨望の眼差しの中キャセイパシフィック航空札幌営業支店為村支店長様とミス香港スカイ・チャンさんより当選者に授与されました。

香港のつどいは例年、札幌の冬の一大イベントであるさっぽろ雪まつりに合わせて、香港との文化交流や相互の観光促進を図るために行われてきた集いです。

香港から北海道へは、年間10万人を超える観光客が訪れ、ビジネス、文化の両面で交流が盛んになってきています。今年も多く、の企業や団体の方々から支えられ、140名を超える皆様にご参加頂き盛況のうちにこの会を終えることができました。来年もさらに多くの皆さんに参加していただけるよう事務局でも取り組んでいきたいと思っております。

事務局 武田 功

**「春節セミナー&パーティ2009
—香港食品輸出促進セミナー&香港観光のタペー」を開催**



伴董事による講演

去る2月20日(金)は、宮城県における1日香港デーとして、一部二部形式で会場を替えて開催しました。今年度一番の大雪の中参加できない方もいましたが、第一部の商談会に7社、セミナーに41名、第二部のパーティに48名の参加を得て、盛大に開催することができました。

第一部のセミナーにおいては、三浦副知事の挨拶の後、香港貿易発展局の古田日本首席代表が登壇、アメリカに端を発した金融危機の影響について講演、また聯裕(香港)有限公司の伴董事からは具体的な日本からの輸入品目について紹介、高まる日本食志向や広がる日本食材について講演されました。成功への鍵は、①現地パートナーの発掘、②継続的なマーケティング投資、そして、③ブランド育成、特に「おいしいみやぎブランド」を育てることだそうです。

第二部の観光のタペ&パーティでは、香港政府観光局の小金アシスタントマネージャーが香港の見所を紹介、旧正月一色の香港飾りが施された会場でモンゴルの馬頭琴の演奏があるなど、参加者は正月気分を満喫していました。



小金氏による観光セミナー

「香港・中国 食品販路拡大セミナー」を開催

昨年11月5日、宮城県、香港貿易発展局との共催により、香港 中国への食品販路拡大セミナーを開催しました。

県の定光次長の挨拶で幕を開け、始めに香港貿易発展局の伊東次長が講演、絶好調の香港経済の中での食品市場について解説、挨拶は「吃飯了没有?」、外食産業の売上総額481億HKドル)、レストランも14,000軒うち1割を日本食レストラン)、香港市場は日本にとってまたとないチャンスとなっているとのことです。

その後、ライフスタイル ジャパンの谷信雄社長、本協会ビジネス部会長の伊藤秀雄社長、そして仙台の酒屋 浅野の浅野康城アドバイザーから具体例について紹介、講演者を囲んだ懇談会にも約30名の方が参加されました。



定光次長の挨拶

クリスマスパーティを開催

昨年12月9日(火)、仙台国際ホテルに於いて、サミュエルチェン新東京事務所長、ジョイ・コー マーケティングマネージャー、仙台市の岩崎恵美子副市長にご臨席いただき、57名の参加者を得て開催することができました。

岩崎副市長の音頭で乾杯、懇談、そして、アトラクションへ。ギター演奏の後登場したのが、広東語教室のメンバーによる「きよしこの夜」の香港版「平安夜」の合唱です。香港出身者が4名も入っての合唱は、とても華やいだ雰囲気になりました。



広東語教室のメンバーによる「平安夜」の合唱

沖縄日本香港協会新春講演会 ～食品から見た香港～

事務局



名城徹取締役事業開発部長の講演

香港貿易発展局並びに沖縄日本香港協会主催による新春講演会が、1月15日(木)那覇商工会議所ホールで開催された。(参加者67名)協賛JETRO沖縄(株)沖縄県物産公社、那覇商工会議所。

「香港における県産品の販路拡大」と題して講演した(株)沖縄県物産公社の名城徹取締役事業開発部長は成功の鍵として「人材育成事業が重要であり、メーカー等から営業マンを数ヶ月長期派遣して現地輸入卸営業マンと同行し、営業活動を通して人的ネットワーク形成と県産品の販路定着拡大を図ることが重要。」

県産品の認知度を上げるため、①統一したメッセージの配信、②県産品棚エンドでの試食飲食のプロモーションの実施、③バイヤー招聘やメディア招聘、④広東語、英語版ウェブサイトの開設、⑤沖縄旅行付きアンケート募集」等の実施が効果的と述べた。

次は「日本食品・農林水産物の輸出先としての香港」と題して講演した香港貿易発展局東京事務所次長兼マーケティング

マネージャーの伊東正裕氏は「香港との経済貿易は輸出が三位、輸入が二位という位置にあり、金額では2007年に520億US\$となっている。香港食品市場の特徴として外食の機会が非常に多く、レストランの総売上額(481億HK\$)が食品の小売総額(61億HK\$)の八倍に相当し、消費者は食費の約61%を外食に充当している。」

日本からの主要輸出品目は乾燥なまこ、貝柱調製品、あわび調製品が上位を占めている。香港でのプロモーション手法は「試食宣伝販売や実演販売(鮪解体、イカの姿焼き等)、買二送一(Buy Two Get One Free)、景品付販売、季節限定企画、健康訴求等が効果的」と説明した。

ビジネス上の注意点として「関税がゼロであるが流通マージン、マーケティング費用が高いこともアドバイスした。」

H21.1.16(金)
琉球新報



伊東正裕次長の講演



香港協会セミナー新聞記事

横浜ドラゴンボートレース 16th 中華街賞杯

6月7日(日) サンデーチャレンジカップ2 参加者募集

応募は5月8日(金)までに NPO 日本香港協会事務局
(TEL: 03-5210-5870 MAIL: tokyo@jhks.gr.jp) まで
お一人の申し込みでもOK! 定員になり次第締め切りますのでお早めに!

飛龍・九龍・飲茶 発進!!

開港150年で盛り上がる横浜の海で、
香港生まれのドラゴンボートを漕ごう!
日本香港協会は毎年横浜ドラゴンボート
レースに『飛龍』『九龍』『飲茶』の
3チームをエントリーしています。
本年は6月7日(日)のサンデー
チャレンジカップ2に乗り込みます。
皆様のご参加をお待ちしております!!



YOKOHAMA DRAGON BOAT RACE CHINATOWN CUP

横浜ドラゴンボートレース 2009 開催概要 (全日程)

- 開催日 5月30日(土)「サタデーチャレンジカップ1」
5月31日(日)「サンデーチャレンジカップ1」
6月 6日(土)「インターナショナルエンジョイレース」
6月 6日(土)「サタデーチャレンジカップ2」
6月 7日(日)「サンデーチャレンジカップ2」(日本香港協会チーム出場)
以上 未経験者~中級者向けレース
6月 7日(日)「インターナショナルチャンピオンカップ」
以上 上級者向けレース

時間 9:00~16:00

会場 山下公園前面海上および園内 (雨天決行)

主催 横浜ドラゴンボートレース協議会

- ・横浜市 ・横浜中華街発展会協同組合 ・日本香港協会
- ・横浜青年会議所 ・横浜国際ドラゴンボート協会

横浜開港150周年記念特別企画



松明と和太鼓のコラボレーション

~夜の港に浮かぶ幻想的な世界~ ほか

特別イベント開催日時 **5月30日(土) 19:00~**

- レースに関するお問合わせ先 ●
- NPO法人 横浜国際ドラゴンボート協会
- TEL : 045-261-1163
- FAX : 045-261-6766
- E-mail : hikita@yokohama-dragon.com
- URL : http://www.yokohama-dragon.com
- 〒232-0022 横浜市南区高根町 3-17-4-409 (リユース内)

